

CASBEE-建築(新築)2014年版  
九大文系教育研究棟■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.22)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-	<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15		-	<b>3.0</b>
1.1 騒音				3.0	0.40		-	
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.30		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20		-	
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35		-	<b>3.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-	
1 室温				3.0	0.60		-	
2 外皮性能				3.0	0.40		-	
3 ゾーン別制御性					-		-	
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.4</b>	0.25		-	<b>3.4</b>
3.1 昼光利用				<b>3.4</b>	0.30		-	
1 昼光率		100人講義室(2)について算定 1.53%		3.0	0.60		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備		共用部分にトップライトを設置(SD-112,113参照)		<b>4.0</b>	0.40		-	
3.2 グレア対策		ブラインドに合わせ		<b>4.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御		庇及びルーバーを組み合わせ昼光制御(SD-114~123参照)		4.0	1.00		-	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.8</b>	0.25		-	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用(SD-004参照)		4.0	1.00		-	
2 アスベスト対策					-		-	
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30		-	
1 換気量		必要換気量は30m3/h人にて算出(換気計算書参照)		4.0	0.33		-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-	
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-	<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.5</b>	0.40		-	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.0</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性					-		-	
2 高度情報通信設備対応					-		-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準(最低限レベル)を満たしている		4.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観				3.0	0.50		-	
2 リフレッシュスペース					-		-	
3 内装計画				3.0	0.50		-	
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の採用や外壁面への水切の設置等(SD-114~123)		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
3 衛生管理業務					-		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.6</b>	0.30		-	<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.8</b>	0.50		-	
1 耐震性		重要度係数として1.25倍を設定している(NS-001参照)		4.0	0.80		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐薬品用:塩ビライニング鋼板, シャワー系統:ステンレス(M-064・073)		5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上水:SUS[C], 洗浄水:VLP[B], 雑排水:炭素鋼鋼管(白)[C](特-2参)		4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.6</b>	0.20			
1	空調・換気設備	熱源種(ガス・電気)の分散化、クールヒートチューブの設置による負	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	耐震クラスをAとして設計(特-2参照)	4.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30			3.7
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30			
1	階高のゆとり	階高4.0m以上(SD-112.113参照)	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.23(壁長さ比率計算書参照)	4.0	0.40			
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		3,900n/m <sup>2</sup> であるが、架構用についての値が小さいのでレベル4	<b>4.0</b>	0.30			
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30			3.1
1	生物環境の保全と創出	外構緑化指数算定53.67%(施-104)	3.0	0.30			3.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40			3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30			3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	庇や中庭などのアメニティ空間を確保。展望室を地域に開放。(SD-	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-			3.7
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40			4.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>4.9</b>	0.20			4.9
<b>2 自然エネルギー利用</b>		トップライト、クールヒートチューブを設置(SD-101,104参照)	4.0	0.10			4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	<b>4.7</b>	0.50			4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BPI=0.808, BEI=0.76	4.7	1.00			
集合住宅の評価(3c)			-	-			
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20			3.0
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00			
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
集合住宅の評価			-	-			
4.1	モニタリング		3.0	-			
4.2	運用管理体制		-	-			
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30			3.3
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.7</b>	0.20			3.7
<b>1.1 節水</b>		擬音装置付暖房洗浄便座、自動水栓採用(M-001・101参照)	<b>4.0</b>	0.40			
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.6</b>	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無	キャンパス全体として雑排水処理を行いトイレ洗浄水等に使用(水処	5.0	0.30			
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60			3.3
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10			
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20			
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		高炉セメントを基礎・地中梁~1階床のコンクリートに採用(NS-002参	5.0	0.20			
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		排水管にリサイクル硬質ポリ塩化ビニル発砲三層管を採用	3.0	0.20			
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10			
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.20			
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20			3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30			
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70			
1	消火剤		-	-			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30			3.3
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		排出率:82%	<b>3.7</b>	0.33			3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33			3.1
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25			
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50			
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25			
1	雨水排水負荷低減	雨水排水貯留池を設置し、排水を制御	4.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	適正な駐車場、駐輪場、バイク置き場の計画としている(A-003)	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25			
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33			3.1
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし、光害対策ガイドラインを一部満たす計画	4.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			